

朝日新聞朝刊の科学面は週2回、原則として月曜日と木曜日に掲載されます。

月曜日は横書きで、紙面の大半を占めるのは、カラーのイラストを付けて科学の最前線を紹介する記事です。今年9月30日は「極限の地 生命を追う 氷の下3500メートルに細菌遺伝子?」。——南極の分厚い氷の下には「氷底湖」と呼ばれる湖がいくつもある。地球で最も苛酷と言われるこの場所で、米・英・ロシアを中心に「生命探し」の競争が激しさを帯びている。その先に見えるのは「地球外の星に生物はいるのか」という問いへの答えだ。——記事は、こう始まります。10月8日は「聞こえない音で監視 核爆発・津波…気圧変化とらえる観測網」、10月14日は「内之浦 ロケット再び コスト減徹底 イプシロン打ち上げ」。どれも理科好きの中学生にとっては、魅力的な内容です。

ほかに、「トピックス」という小さなタイトルで短い最新科学情報が載せられます。9月30日は「CO2 分解するセメント」と「糖尿病、新たなリスク要因」、10月8日は「体内時計で症状変化」など、10月14日は「細胞レベルで老化防止」などでした。中学生への理科のお話として無理のないものです。

木曜日は、ニュースに即した記事が中心で、10月3日は「ノーベル賞を占う」。翌週発表のノーベル賞の自然科学系（医学生理学賞、物理学賞、化学賞）の有力研究とそこで活躍する日本人を紹介しています。10月10日には、受賞結果が詳しく解説されています。木曜日には、「探究人」という、科学者を紹介するコラムもあります。木曜日の科学面は、理科教師としてはぜひスクラップしておきたい内容です。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)